水土里ネット奈良

奈良の土地改良

発行：令和５年1月
奈良県土地改良事業団体連合会
奈良県橿原市城殿町４５９番地
TEL0744-29-1310
FAX0744-29-1312
https://www.naradoren.or.jp

奈良市月ヶ瀬
写真提供：日本風景写真協会　奈良第二支部　支部長　吉崎喜寿　氏

目次

１．令和5年 新年のご挨拶
奈良県土地改良事業団体連合会 会長 奥野信亮 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
奈良県 知事 荒井正吾 ・・ ２
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤金日子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 宮崎雅夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４
２．『農業農村整備の集い』に参加 ・・ ５
３．全国水土里ネット女性の会研修会に参加
４．令和４年度　土地改良施設の整備補修事例検討会　開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６
５．令和５年度　政策提案・要望活動 ・・・ ７
６．令和４年度　奈良県土地改良事業団体連合会　理事会　開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８
７．第４４回　全国土地改良大会（沖縄大会）に参加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
８．令和４年度　奈良県農村振興技術連盟　功労者表彰式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
９．農業農村整備事業に関する説明会・意見交換会
１０．奈良県農村地域づくり協議会　ＰＲ活動 実施 ・・・１２
１１．令和４年度　農業農村整備に関する研修会 ・・・１３
１２．複式簿記導入のための土地改良区巡回指導について ・・・１４
１３．公益財団法人 農業振興会館　第30回美アップ農村・レディセミナー 開催 ・・・１５
１４．奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会 ・・・１６
１５．「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2022」受賞作品 ・・・１７
１６．各課のご紹介(支援業務課) ・・・１８

令和５年　年頭ご挨拶

奈良県土地改良事業団体連合会
会長　　奥 野 信 亮

奈良県土地改良事業団体連合会の皆様方に於かれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より奈良県の農業の礎を支えてくださり、本会の運営に御協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵攻や急速な円高の影響でエネルギー価格を中心として物価が高騰、以来、農業経営にも大きな影響が出ております。政府では肥料価格高騰対策事業、飼料価格高騰緊急対策など様々な支援の取り組みがなされておりますが、農家の皆様にはたいへんな御苦労をいただいていることと思います。その御苦労に報いられるよう衆議院議員として、そして本会の会長として農業振興に尽力して参りますので、引き続いてのご指導を何卒、宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年末に国連世界観光機関とバスク・カリナリー・センターの主催で、世界各国の観光分野の政府関係者や事業者らが集まり食と観光をテーマに議論する国際会議「第7回UNTWOガストロノミーツーリズム世界フォーラム」が奈良県で開催されました。「ガストロノミーツーリズム」という少し聞き慣れない言葉は「食文化を楽しむ旅」のことで、美食を楽しむだけでなく、食を通じて、その土地の気候風土や伝統、歴史などに触れることに重点が置かれ、近年国内外から注目されている旅のスタイルです。奈良県は言うまでもなく、法隆寺市域の仏教建造物、古都奈良の文化財、紀伊山地の霊場と参詣道の世界遺産に代表される歴史遺産が豊富、自然も豊富で、1つの国立公園と4つの国定公園、3つの県立自然公園を有しています。農産物については米、柿、生乳、いちご、ほうれんそう［農業産出額上位５品目］を筆頭に大和まな、大和いも等２５品目の大和野菜、全国７位の生産量を誇る茶、河川ではアユにアマゴ、ブランド化された畜産物も多数あり、県土全域でそれぞれの風土に合った農産物が生産されています。まさに奈良県はガストロノミーツーリズムという旅のスタイルの、うってつけの訪問先ではないでしょうか。私はかねてより「農産物に付加価値をつけて儲かる農業を実現をしよう」と提唱させていただいておりますが、無農薬・減農薬での栽培、糖度の高さ、新鮮さなどの品質上の付加価値だけでなく、ガストロノミーツーリズムのような旅と食のスタイルが浸透することによって、農産物の産地の歴史や自然、地元のレストランの料理の仕方、提供の仕方などが相まって、その農産物の付加価値が上がっていくのも一つの理想ではないかと感じています。そんな理想を掲げながら、皆様と一緒にこれからも農業農村整備に努めて参りたいと考えております。賛同いただき、ご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして佳き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い致します。

令和５年　新年を迎えて

奈良県
知事　荒 井 正 吾

奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、会員をはじめ皆様方の行動にも影響を及ぼし、ご苦労をおかけしています。県では、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を推進してまいりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

奈良県土地改良事業団体連合会におかれましては、昭和35年の設立以来、長きにわたり市町村、土地改良区等による農業農村の基盤整備、維持管理や地域活性化に向けた取組を推進していただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

この間、土地改良事業により、大和平野への農業用水供給にはじまり、五條吉野の柿、大和高原の茶、平群の小菊などに関する生産基盤の整備にご尽力いただき、奈良県の農業農村整備をけん引していただきました。

県においては、農地を有効活用し、農業の生産性向上を図るため、特にモデルとなる地域を、市町村や地域の皆様にご参加いただき協定を結び「特定農業振興ゾーン」として、各種施策を集中的に取り組んでいます。

また、リーディング品目など主要産地の発展に向けた農業用排水施設の整備、防災重点ため池の対策工事等の防災・減災対策、農村地域活性化のための地域づくり事業など、農業・農村の振興施策を展開しています。令和３年７月には、防災重点ため池を管理されている方に対し、点検・管理・補修などの相談、支援を行う「奈良県ため池支援センター」を設置し、貴会で運営していただいています。

市町村において実施していただいている防災重点ため池や農業用水利施設の調査、市町村や土地改良区が実施する農業農村整備事業の円滑な事業推進に、貴会の役割はますます重要であると考えています。引き続き、よりよい奈良県の農業農村をつくるため、各施策の推進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様にとって、実り多い年になりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和５年　新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　　進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。奈良県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和４年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靭化５か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和５年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返えると、新型コロナウイルス感染症が続く中、２月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年７月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靭なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年６月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げ、新年のご挨拶にさせていただきます。

令和５年　年頭ご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　　宮 崎 雅 夫

輝かしい初春を迎え、奈良県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年８月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただき、その間皆様方からお受けした、たくさんのご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決等に向け、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した平成4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額８，２０６億円、このうち、農業農村整備事業関係については、１，６７７億円（食料安全保障強化対策１００億円、総合的なTPP等関連対策７６０億円、防災・減災、国土強靭化８１７億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰に対し、増嵩分の７割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算額としては、前年を上回る４，４５７億円が計上され、総額６，１３４億円となる見込みとなりましたが、これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進や農業農村関係人口の拡大などを含めて、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでにも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりお伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいる決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、奈良県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係機関の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

『農業農村整備の集い』に参加

「農業農村整備の集い」が、令和４年１０月２０日（木）に、東京都千代田区シェーンバッハ・サボーにおいて、全国土地改良事業団体連合会の主催により開催されました。

この「集い」は、毎年２回行われ、農業農村整備に携わる全国の関係者が一同に会し、それぞれの現場で直面している喫緊の課題を再確認し、これらの諸課題に緊急に対応するべく、農業農村整備の一層の充実と推進を期する事を目的に開催されています。

本年度は、６月14日に開催され、今回が2回目の開催となります。全国から約１１１０名が参加となりました。主な出席者としては、国会議員、農林水産省農村振興局幹部職員に加え、都道府県水土里ネットの関係者が参加し、奈良県からは２１人が参加しました。

主催者を代表して挨拶した二階俊博　全国土地改良事業団体連合会会長は、「5年度予算の編成に向けた折衝が進んでいるが、農家の方々に期待をもって働いていただける環境をつくるため、充分な予算の確保に向け一致団結していく必要がある。

また、男女共同参画の取り組みを本格化させていくときが来た。「土地改良区の理事の10%以上を女性にする」「土地改良区と土地連の女性登用を推進する」という目標達成に向けて、今年から集中的に取り組んでいかなければならない」との挨拶がありました。

そのほか、藤木農林水産大臣政務官、進藤金日子 全国水土里ネット会長会議顧問からも力強い支援のお言葉を頂きました。

最後に、令和4年度補正予算及び令和５年度当初予算における必要な予算確保を盛り込んだ全９案の要請文が満場一致で採択され、水土里ネットおきなわの知念武副会長の発声に併せてガンバロウ三唱が行われ「集い」は盛会裏に終了しました。

全国水土里ネット女性の会研修会に参加

10月21日（金）砂防会館別館1階会議室で、全国水土里ネット女性の会研修会が開催され、全国から関係者100名が参加しました。

始めに、全国水土里ネット女性の会根本会長（あきた水土里ネット女性の会会長）から、「女性活躍を推進していくためには、その必要性を土地改良関係者それぞれの立場で正しく理解し、一体となって取り組むことが重要だ」と挨拶がありました。

研修会では、全国水土里ネット室本専務理事より「農業農村整備について」と題して、土地改良区の業務や歴史、土地改良団体における男女共同参画について講演をしていただきました。

次にグループワークとして「男女共同参画推進に向けた、課題解決」”意識の醸成のための運動論を探る”と題して、参加者をAからPグループに分け女性参画に向けた現在の課題や課題解決に向けた具体策など活発な意見交換が行われました。

最後に情報提供として全国水土里ネット会長会議宮崎顧問より「全国水土里ネット女性の会が設立され約3年経つが、まだマスクが外せない状況の中このように全国からFace to Faceで集まるのは本当に久しぶり。是非この機会に皆さんの輪を広げていただきたい」と挨拶がありました。

今回の研修は全国から様々な土地改良区関係者が集まり、実り多い研修会となりました。

グループワークの様子

根本会長

全国水土里ネット会長会議
宮崎雅夫 顧問

室本専務理事

令和４年度　土地改良施設の整備補修事例検討会　開催

令和４年１０月３１日(月)に、大和平野土地改良区３階 大会議室において、令和４年度　土地改良施設の整備補修事例検討会を開催しました。

本事例検討会は、土地改良施設の診断・管理指導等に基づき実施される整備補修について、先進技術の導入やコスト低減等の整備補修事例による技術の共有化を図ることを目的として全国水土里ネット主催により毎年度開催されています。

農林水産省 整備部 土地改良企画課 鈴木係員をはじめ近畿農政局、土地改良技術事務所、管内の県及び水土里ネットの担当など２３名が参加しました。

開会にあたり、主催者である全国土地改良事業団体連合会 田上佳史 中央土地改良管理指導センター主任の挨拶の後、近畿農政局農村振興部 細渓拓男土地改良管理課係長、奈良県土地改良事業団体連合会 菅谷義寛常務理事より挨拶を頂きました。

その後、土地改良施設の整備補修事例として、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県より事例発表があり、提案事例に対しての質疑応答を行い、議論がなされました。

そして、事例提案後、事例選定を行い、兵庫県と和歌山県の提案事例が選定されました。

最後に、提案事例に対して、近畿農政局土地改良技術事務所 山本施設・管理課長より、総括を頂きました。

また、農林水産省 整備部 土地改良企画課 鈴木係員から、適正化事業の実施について、お願いと連絡事項がありました。

全国土地改良事業団体連合会
中央土地改良管理指導センター
田上主任

近畿農政局 農村振興部
土地改良管理課 細渓係長

奈良県土地改良事業団体連合会
菅谷常務理事

京都府土地改良事業団体連合会
業務課 加藤技師

兵庫県土地改良事業団体連合会
事業部 施設管理課 石川補佐

奈良県土地改良事業団体連合会
技術課 坂上主査

和歌山県土地改良事業
団体連合会
技術情報課 中岡主幹

近畿農政局
土地改良技術事務所
施設・管理課 山本課長

農林水産省 整備部
土地改良企画課 鈴木係員

土地改良施設の整備補修事例検討会 事例提案

事例１	田辺勇田揚水機場　（綴喜西部土地改良区） 「ナイロンコーティーン管による揚水管更新事例」	京都府土地改良事業団体連合会 業務課 技師 加藤 隆丈
事例２	荒井頭首工（荒井土地改良区） 「減速機等の潤滑油を分析し、設備の延命を図った事例」	兵庫県土地改良事業団体連合会 事業部 施設管理課 課長補佐 石川 喜之
事例３	東西幹線水路　（北倭土地改良区） 「コンクリート水路の長寿命化とコスト縮減を目的とした補修事例」	奈良県土地改良事業団体連合会 技術課 主査 坂上 直
事例４	矢田第１揚水機場（川辺町周辺土地改良区） 「将来に向けたポンプ設備の能力検討と費用の軽減について」	和歌山県土地改良事業団体連合会 技術情報課 主幹 中岡 昌博

令和５年度　政策提案・要望活動

令和５年度の政策提案・要望活動を、奈良県土地改良事業団体連合会、 奈良県農業農村整備事業推進協議会、奈良県土地改良区連絡協議会３者合同で、令和４年１１月１５日（火）、１６日（水）に行いました。進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員及び奈良県選出の国会議員、農林水産省・財務省に、地域の実情を説明するとともに、予算確保に向けての要望活動を行いました。

○○令和４年１１月１５日（火）要望活動の様子○○

高市早苗　経済安全保障担当大臣

田野瀬太道　衆議院議員

奥野信亮　衆議院議員

小林茂樹
環境副大臣兼内閣府副大臣

堀井巌　参議院議員

宮崎雅夫　参議院議員

佐藤啓　参議院議員

進藤金日子　参議院議員
豊秘書　対応

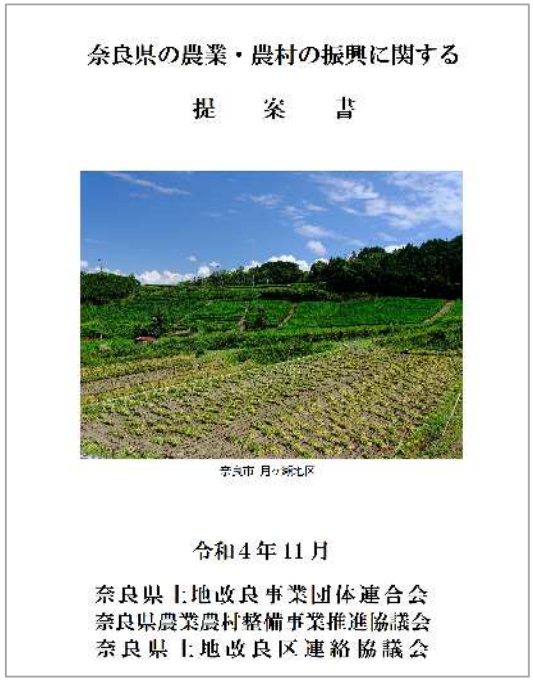
○○令和４年１１月１６日（水）要望活動の様子○○

農林水産省 青山健次 整備部長

農林水産省 安部伸治 農村振興局次長

財務省
河口健児 主計局主計官

財務省 前田 努 主計局次長


奈良県の農業・農村の振興に関する

提　案　書

奈良市 月ヶ瀬北区

令和４年 11 月

奈良県土地改良事業団体連合会
奈良県農業農村整備事業推進協議会
奈良県土地改良区連絡協議会

提案書表紙に奈良市月ヶ瀬の農村風景
（写真家吉崎氏撮影）

令和４年度　奈良県土地改良事業団体連合会　理事会　開催

令和４年１１月２８日(月)、大和平野土地改良区３階 理事会室において、令和４年度 奈良県土地改良事業団体連合会理事会を開催しました。上田議長の下、議案が審議され、承認を得ました。

第１号議案令和４年度事業並びに会計状況の中間報告については、特に、令和８年度に全国土地改良大会を奈良県に誘致することを報告しました。

第２号議案処務規程の一部変更については、常務理事の専決、代決、事務局長の専決について新設または変更すること。令和４年４月１日より組織の体制が総務企画課、支援業務課・農地地図情報センター、技術課となり事務分掌も明確化したこと。この体制で全国土地改良大会の準備や土地改良区の相談業務を行っていくことを説明しました。

第３号議案会計規程の一部変更については、土地改良区会計基準の改正にともない、貸借対照表の固定資産の定義を、基本財産・特定資産・その他固定資産の３区分に変更することを説明しました。

第４４回　全国土地改良大会（沖縄大会）に参加

「第４４回全国土地改良大会沖縄大会」が、沖縄県の本土復帰５０周年を記念し、令和４年１１月２２日（火）に、沖縄市沖縄アリーナにおいて、主催は、全国土地改良事業団体連合会、沖縄県土地改良事業団体連合会、「水土里の拓くみるく世を鳴らしとぅゆまし守禮の邦から」（水土里[土地改良]は、農地や水源を整備して地域や国を豊かにし平和の世をつくります。この水土里の素晴らしさを守禮の邦、沖縄から発信し、広く世界へ届けよう）を大会テーマに、３年ぶりに一堂に会して開催されました。

沖縄大会には、全国から２３００名余の土地改良関係者が参集し、奈良県からは、２５名が参加しました。主催者挨拶で、二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、予算獲得に向け常に「闘う土地改良」を標榜しており、「一致団結して闘っていこう、皆さんの一層のご協力をお願いしたい」と述べられました。

続いて、勝俣孝明農林水産副大臣、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問、宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問による来賓祝辞がありました。

次に、土地改良事業功績者表彰式が行われ、奈良県からは、北郡山土地改良区理事長　髙塚康文氏が、全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。その他、安部伸治農林水産省農村振興局次長による「夢(いみ)をつなぐ土地改良」（沖縄の方言で「夢」を「いみ」と言う）と題した、基調講演や、沖縄県の優良地区事例の紹介、沖縄県土地改良事業団体連合会職員による大会宣言の朗読、次期開催県である山﨑正昭福井県土地改良事業団体連合会会長からの挨拶などがありました。

また、大会会場では、式典のほか、全土連や沖縄県、ICT企業などによるパネル展示や沖縄県市町村による物産展、次期開催県(福井県)コーナーなどが設けられ会場内は活気にあふれていました。

アリーナの様子

全土連　二階俊博 会長

勝俣孝明　農林水産副大臣

奈良県参加者一同

全国水土里ネット会長会議
顧問　進藤金日子　氏

全国水土里ネット会長会議
顧問　宮崎雅夫　氏

土地改良事業功労者表彰
全国土地改良事業団体連合会長賞

長年にわたり地域の農業振興、土地改良事業の推進にご尽力なさいました

北郡山土地改良区　髙塚康文　理事長

が受賞されました。

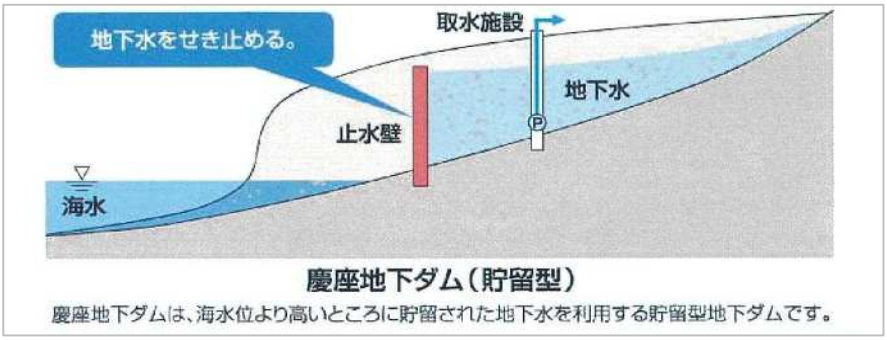
現地視察のご紹介

慶座（ギーザ）地下ダム－沖縄県八重瀬町－

全国土地改良大会の前日には、沖縄本島の八重瀬町にある視察地を訪れ、その施設や取り組みについて、お話を伺いました。

慶座地下ダムの高さは53.02m、総貯水量は21万㎥となっており、このダムの完成によって、八重瀬町の農業の生産性は格段に向上しました。このダムがある沖縄本島の糸満市、八重瀬町にまたがる畑作地帯は、河川がなく、地表水を利用した畑地かんがいが困難であり、保水性に乏しい土壌条件と相まって農業生産は天候に左右され、生産性の向上、高収益作物の導入が図れず、不安定な農業経営を余儀なくされていたそうです。そのため、国営沖縄本島南部土地改良事業により地下ダム2カ所(慶座地下ダム、米須地下ダム)を新設することにより水源を確保し、用水路を新設するとともに、関連事業により末端用水路の整備及びほ場整備を行い、農業生産の向上が図られました。

現地視察においては、沖縄本島南部土地改良区の伊敷学局長より、地下ダムの施設の説明を受け、参加者は熱心にお話を聞き、意見交換されました。



○地下ダムの特徴○

1.地下の琉球石灰岩の小さな空隙を利用して貯水するため、水没地がなく、ダム完成後も地表部分は従前と同じ土地利用が可能

2.地下水の流動が比較的遅いため、干ばつ時でも多雨時に地下浸水した地下水が徐々に貯留域にかん養され、長期間にわたって安定した取水ができる

3.地下水であるため一年中水温が安定している

【琉球石灰岩】
琉球石灰岩は約120万年～30万年前のサンゴ礁堆積物がその後の地殻変動によって隆起台地化したもので、空隙の発達が著しい。

当連合会では、毎年、会員のみなさまに全国土地改良大会の参加についてご案内させていただいております。
令和５年は、福井県で開催されます。是非とも多くの会員の皆様にご参加していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

『第45回全国土地改良大会』 福井大会

開催時期：令和5年10月11日(水)　開催場所：福井県　サンドーム福井

令和４年度　奈良県農村振興技術連盟　功労者表彰式

令和４年１１月４日(金)、大和平野土地改良区３階 大会議室において、令和4年度 奈良県農村振興技術連盟功労者表彰式が開催されました。奈良県農村振興技術連盟会員として、長年農村振興のための事業に携わり功績顕著な会員に対し表彰が行われています。今回は、斑鳩町建設農林課　手塚仁氏、五條市土木管理課　西上俊弘氏、大和平野土地改良区　藪本啓介氏、奈良県土地改良事業団体連合会支援業務課　今出靖氏が受賞されました。

今出　靖　支援業務課長

農業農村整備事業に関する説明会・意見交換会

令和４年１１月４日(金)、令和4年度奈良県農村振興技術連盟功労者表彰式終了後、県食と農の振興部農村振興課による「農業農村整備事業に関する説明会」が行われました。

【 内　　容 】

1. 農業・農村を巡る状況の変化と土地改良事業の対応
   ① 農業・農村を巡る状況の変化
   ② 農業政策の展開方向
   ③ 土地改良事業の方向性
   ④ 概算要求の概要

2. 電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援
   地方交付金の創設

3. 土地改良事業団体連合会の業務の見直し
   （委託を受けて行う土地改良事業の工事）

その後の意見交換会では、参加土地改良区から土地改良区が抱える運営上の様々な問題について活発な質疑がなされ、充実した内容で意見交換が行われました。

令和４年１１月２３日（水･祝）

奈良県農村地域づくり協議会　ＰＲ活動 実施

第７回 葛城山麓ウォークのスタート地点において、奈良県農村地域づくり協議会活動組織のＰＲ活動を実施しました。協議会のパネル、関連商品の展示、案内チラシの配布を行いました。

関連商品展示の様子をご覧になる阿古葛城市長

葛城山麓ウォークは、奈良県農村地域づくり協議会会員の**葛城山麓地域協議会**が主催する葛城山麓地域の７つの集落を巡る約１０ｋｍのウォーキングイベントです。

第７回　葛城山麓ウォーク　チラシ

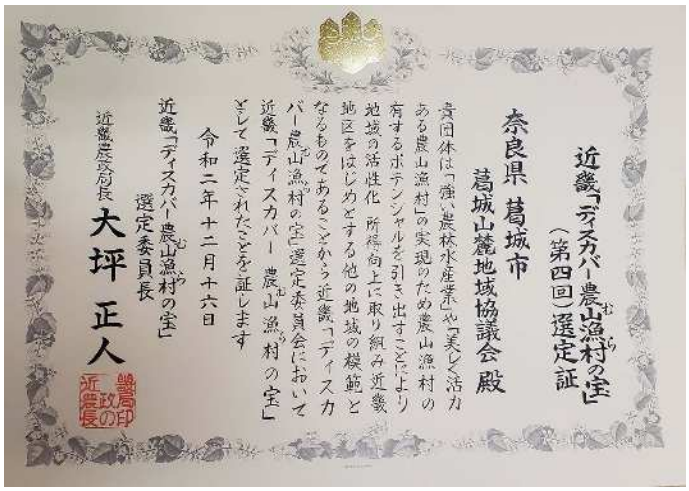
地域資源を見ながらのコース途中には、スタンプ押印ポイントや各集落の特産品販売、収穫体験、ボランティアガイドの解説などがあり、自然、人、秋の味覚に触れて満たされる一日になる様に、各集落でおもてなしに取り組まれています。

本年度は、葛城山麓わくわく市(梅乃宿酒造コラボ)と併せて3年ぶりに開催されました。

ウォーキングの様子

葛城山麓地域は、農林水産省の『つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～』に認定されています。

■ 葛城山麓地域協議会（葛城市） ■



近畿「ディスカバー農山漁村の宝」
（第四回）選定証

奈良県 葛城市
葛城山麓地域協議会 殿

貴団体は「強い農林水産業」や「美しく活力ある農山漁村」の実現のため農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化 所得向上に取り組み近畿地区をはじめとする他の地域の模範となるものであることから近畿「ディスカバー農山漁村の宝」選定委員会において近畿「ディスカバー 農山漁村の宝」として 選定されたことを証します

令和二年十二月十六日

近畿「ディスカバー農山漁村の宝」
選定委員長
近畿農政局長　大坪 正人

葛城山麓地域協議会は、奈良県と大阪府の境界となる山々の1つ、葛城山の東麓に位置する７つの集落（南藤井、寺口、山田、平岡、山口、梅室、笛吹）が、地域の賑わいづくりはもとより、荒れていく農地を守りたいという思いで力を合わせて取り組んでいます。

地域の自慢は水田、菊づくり、酪農などの農業、「おんだまつり」はじめ由緒ある文化の継承、そして何よりも山麓ならではのすばらしい景観が眺望できます。山麓地域のいいところを訪れる皆さんに満喫していただくため、「葛城山麓ウォーク」イベントをはじめ、新しい特産品づくりとして、桑や山椒、古代小麦、薬草の栽培と加工品づくりに力を入れています。

令和２年には、第4回近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定されました。

令和４年度　農業農村整備に関する研修会

令和４年１２月１３日（火）大和平野土地改良区 大会議室において奈良県農業農村整備事業推進協議会主催による農業農村整備に関する研修会を開催しました。

今回の研修会は、令和５年１月に会計検査院による農林水産検査第２課の会計検査が行われることもあり、農村振興課による会計検査受検説明会と併せ２部形式で開催しました。

講師を近畿農政局 農村振興部 設計課 二神課長にお願いし、「地方財政措置及び近年の会計検査の動向について」 の講義をして頂きました。会員及び会員以外の市町村の職員、奈良県各課の職員97名の参加がありました。

開会にあたり、協議会を代表して、幹事会の会長である大和郡山市 産業振興部 農業水産課 東田課長より、研修会参加のお礼、協議会の目的など、また、本日の研修会について２部形式になっているため、協議会の会員以外の市町村、奈良県各課の参加を頂いていることについてなどの挨拶がありました。

また、研修会に臨席して頂いた奈良県 農村振興課 長谷川課長より、県内の農業農村整備の状況、会計検査の講義をお願いした旨、第2部で受検説明会を行う旨の挨拶がありました。

大和郡山市 農業水産課 東田課長

奈良県 農村振興課 長谷川課長

近畿農政局 設計課 二神課長

奈良県土地改良事業団体連合会
菅谷常務理事

近畿農政局 農村振興部 設計課 二神課長より地方財政制度の概要、土地改良事業における市町村の負担割合（ガイドライン）の講義のあと会計検査について近年の指摘事項、検査の目的、今後の対応についての話があり、受講された職員の方は身近な話なので聞き入っていました。

閉会にあたり、協議会事務局である奈良県土地改良事業団体連合会の菅谷常務理事より、本日のお礼と土地改良事業を行う上で、地方財政の仕組みを知っておくことは必要であるなどの挨拶がありました。

引き続き、第２部として、農村振興課による会計検査の受検説明会が開催されました。

複式簿記導入のための土地改良区巡回指導について

平成３１年４月に土地改良法が改正され、原則として土地改良施設を管理するすべての土地改良区において、令和４年度から決算関係書類として、貸借対照表の作成と公表が義務づけられました。このことを踏まえて、本会では令和元年度から「土地改良区体制強化事業」により土地改良区における貸借対照表作成のための複式簿記会計の円滑な導入を推進するため、土地改良区に出向き「巡回指導」を実施してきました。「巡回指導」の実施にあたり、関係機関の皆様方には、ご理解とご協力を頂きありがとうございました。

また、複式簿記方式により会計処理を行うことが著しく困難な土地改良区にあっては当分の間単式簿記方式により会計処理を行いながら貸借対照表を作成することになりました。ただし、「著しく困難」であるとは、次の要件のいずれかに該当する場合です。

①土地改良区の業務用パソコンがない場合
②会計事務を電算処理していない場合
③職員不在等の場合
④土地改良区の毎年度の決算規模がおおむね５００万円未満の場合
⑤その他①から④までの要件に相当する特別な事情がある場合

県内の状況として、県内の土地改良区は土地改良区連合を含め８５あります。
そのうち複式簿記ソフトを導入し複式簿記に移行する土地改良区は１６、単式簿記を継続し貸借対照表を作成する土地改良区は５６、残り１３は土地改良施設を管理していないか解散予定か休眠土地改良区となってます。

奈良県内土地改良区の状況

複式簿記導入土地改良区	単式簿記を継続し貸借対照表を作成する土地改良区	解散予定、貸借対照表作成不要の土地改良区
16	56	13

貸借対照表は土地改良区の全資産を知る上で重要なものとなり、作成には複式簿記の導入が最適ですが、県内土地改良区は地区面積が小さく、予算規模も小さな土地改良区が多く複式簿記に移行できる土地改良区は限られています。本会はそうした土地改良区に対し、収支決算書から一括変換し貸借対照表を作成するソフトを用いて説明を行ってきました。
今年度は、将来的に複式簿記の導入の必要性も含め、単式簿記を継続し、貸借対照表を作成する土地改良区に対して複式簿記の導入の推進を行うための巡回指導を、また、複式簿記を導入された土地改良区へはスムーズに移行できるように引き続き指導を行っていきます。
今後ともよろしくお願いします。

公益財団法人 農業振興会館　第30回美アップ農村・レディセミナー 開催

令和４年１１月７日（月）、奈良市高畑町の『奈良ホテル　金剛の間』において、公益財団法人農業振興会館主催（事務局：奈良県土地改良事業団体連合会）の『第３０回美アップ農村・レディセミナー』を開催しました。セミナーには、奈良県で暮らす、地域の農業農村の振興のためご活躍されている女性、農業農村に関心のある女性３７名が参加されました。

はじめに、主催者である公益財団法人農業振興会館福井常夫副理事長より開会挨拶をしました。続いて乾新弥　奈良県食と農の振興部長からの来賓挨拶をいただきました。

『モノも自分も大切に。「捨てる」からはじめない片づけ』

続いて、専業主婦を経て現在奈良市を中心に「作ろう熱中空間・生み出そう自分時間」をモットーにお客様が自分らしく暮らせるための片づけサポートを提供されておられる　片づけサポートippoippo　代表　小山内亮子先生　による講演が『モノも自分も大切に'捨てる'から始めない片づけ』と題して、片づけの手順や家族円満の片づけのこつなど実際のエピソードを交えてお話いただきました。講演後のアンケートでは「片づけはただ捨てるだけではなく、'いる''いらない'を考える、戻しやすさを考えるなど、今まで気づかなかった片づけの方法を学びました」「年末の片づけに役立てたい」「大変参考になりました」など感想をいただきました。

【情報交換会】 奈良ホテル『大和の間』にて

情報交換会では、主催者であります、（公財）農業振興会館奥野理事長の挨拶をはじめ、来賓としてお越しいただいた村井副知事より、奈良県の現状や、食と農とは密接な関係があり、女性の活躍は地域の活性化など、挨拶いただきました。

続いて、奈良ホテルの食堂宴会課によるテーブルマナー講習後、『令和４年度奈良県農村地域づくり協議会のPR事業』として、活動に関連する農産物加工品の展示、ＨＰの紹介などがありました。

また奈良県食と農の振興部　長谷川農村振興課長からは、２月４日(土)に開催される農村振興シンポジウムのご案内がありました。

令和４年度
奈良県農村地域づくり協議会
PR事業

奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会

令和４年12月３日(土)、『令和４年度　奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会』が、宇陀市　金剛一智市長のご臨席のもと開催され、受賞者会会員24名と、来賓の方々がご参加されました。

「宇陀市中央公民館」での総会の後、宇陀市榛原大貝「有限会社山口農園」にて現地研修が行われました。

総会では、まず始めに主催者である受賞者会　井上源一会長の開会挨拶があり、来賓の(公財)農業振興会館　福井常夫副理事長、金剛一智宇陀市長、奈良県食と農の振興部　田中良宏次長がご挨拶されました。

次に、新会員となる令和３年度受賞者の紹介があり、その後、議事に入り、受賞者会　東口義巳副会長が議長に選出され、議案は全て原案通り可決承認されました。次期開催地については大和郡山市となりました。

総会の後、宇陀市受賞者の方から事例紹介がありました。

議　案

第１号議案　令和3年度事業報告、収支決算について
第２号議案　令和4年度事業計画、収支予算(案)について
第３号議案　次期開催地について

受賞者会　井上 源一 会長

宇陀市　金剛一智 市長

ー　事例紹介　ー

●山口　武氏（令和2年度受賞者）(有)山口農園 顧問

47歳から農業を始め、家業の農家に従事する。売り上げ目標を掲げ、働く時間の見える化を行い、有機JASの認証を取得。平成17年に(有)山口農園を設立、平成22年にアグリスクールを設立し多くの新規就農者を輩出、規模が大きくなったタイミングで生産・収穫・袋詰め作業などの分業化などを行った。(有)山口農園を60歳で息子に継承し、令和元年にウェルネスフーズUDAを立ち上げ、(有)山口農園の規格外品を乾燥、粉末加工する他、薬草・入浴剤・健康茶などを製造・販売している。「人がやっていないことをやる」「仕事とプライベートにメリハリをつける」 などをモットーに、農業に取り組んでこられました。

山口 武 氏(令和２年度受賞者)

ー　現地研修　ー

「有限会社山口農園」ー有機農産物(軟弱野菜)・ハーブ類の生産・加工・販売ー

現地研修では、事例紹介があった「(有)山口農園」にて、山口貴義社長にご説明いただきながら、ハウス、作業所、堆肥場を見学しました。ハウスは中古のものを再利用、足場の悪いところにはリサイクルの木のチップを敷いたり、中古のトラックを倉庫に活用する等の工夫により経費を削減。堆肥場は堀り込み式にして匂いを軽減、牛糞、廃棄野菜を混ぜ込み、無農薬・有機栽培を行われています。

また、全国で初めて宇陀市が宣言した「オーガニックビレッジ(有機農業に地域ぐるみで取り組む産地)」についてもお話しいただきました。

(有)山口農園　山口貴義 社長

ハウス

作業所

堆肥場

ー　情報交換会　ー

「美榛苑」

現地研修の後、宇陀市榛原福地「美榛苑」にて、(公財)農業振興会館　奥野信亮理事長も出席されて情報交換会が行われ、熱心な情報交換があり、有意義な時間となりました。

(公財)農業振興会館　奥野信亮理事長

「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2022」受賞作品

本年度開催された「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2022」には、全国から2,993点の作品応募があり、その中から入賞31作品、地域団体賞44作品（地域別選考）、入選126作品（全国選考）、佳作203作品が選考されました。

奈良県内小学校からは11作品の応募があり、その中から特別賞/ふるさと水と土優秀賞1作品、水土里ネット奈良会長賞１作品、入選1作品が選ばれました。おめでとうございます。

ご応募をいただいた皆様、ありがとうございました。来年度もたくさんのご応募をお待ちしております。

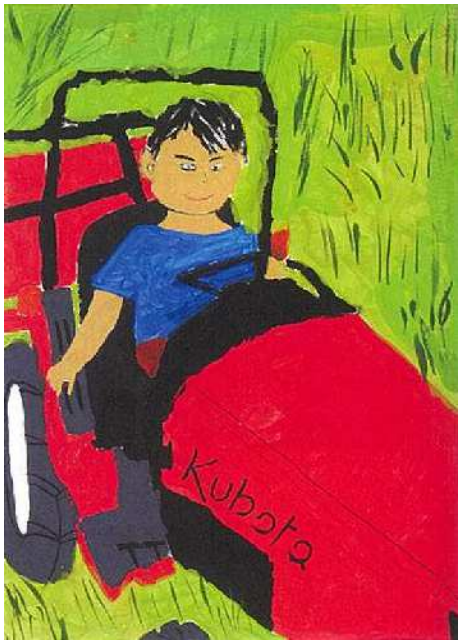
【特別賞/ふるさと水と土優秀賞】

「緑の世界」
奈良県大和郡山市立治道小学校　5年生
村井　晴花　さん

【水土里ネット奈良　会長賞】

「一日おへんろばし」
奈良県大和郡山市立治道小学校　3年生
村井　友樹　くん

【入選】



「トラクターのお手伝い」
奈良県大和高田市立盤園小学校　1年生
名倉　悠晴　くん

水土里ネット奈良
各課のご紹介

・支援業務課・

私たち支援業務課は、二人のホープを迎え、課長の今出を中心に課の業務を行っています。
日々フレッシュな気持ちで取り組んで参ります！

農地地図情報センター

●支援業務課　業務内容●

・換地業務に関すること。
・用地測量業務に関すること。
・換地研修会に関すること。
・換地関係異議紛争処理実務研修会に関すること。
・土地改良区体制強化事業に関すること。
（但し、受益農地管理強化・研修人材育成に関すること。）
・多面的機能支払推進協議会に関すること。
・奈良県農村地域づくり協議会に関すること。
・受益農地管理強化委員会（土地改良区体制強化事業）に関すること。
・農地地図情報システムに関すること。

● 職 員 紹 介 ●

令和４年度より奈良県土地改良事業団体連合会に採用されました名村淳、堀川元気と申します。

当会では支援業務課及び農地地図情報センターにて、主に農地の区画整理業務である換地業務や県内の農地筆データである農地地図情報の更新、修正等の業務に携わっております。

県や市町村のご担当者様をはじめ、地元役員の皆様とも一緒にお仕事をさせていただく機会にも恵まれております。少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

行事予定

開催月	会議・行事名	開催(予定)地
2月4日(土)	農村振興シンポジウム (多面的機能支払制度に関する研修及び農村地域づくり協議会のPR等)	奈良県コンベンションセンター
2月10日(金)	土地改良区技術実践向上研修会	大和平野土地改良区
2月20日(月)	奈良県土地改良事業団体連合会　監事会・理事会	大和平野土地改良区
2月20日(月)	公益財団法人農業振興会館　理事会・功績者表彰審査会	大和平野土地改良区
2月21日(火)・22日(水)	換地計画実務研修会	大和平野土地改良区
３月上旬	公益財団法人農業振興会館　最先端農業を学ぶセミナー	大和平野土地改良区
３月25日(土)	第63回　奈良県土地改良事業団体連合会　通常総会	大和平野土地改良区
３月25日(土)	公益財団法人農業振興会館　令和４年度　農業振興功績者表彰式	大和平野土地改良区

※　今後、変更する場合があります。

弁護士による 土地改良に関する法律相談を開始します

本会では、法的な判断が必要とされる土地改良区の案件について、
令和５年３月より顧問弁護士による法律相談を始めます。
※県に対する許認可(定款変更の手続きなど)等の行政事務は除きます。

実施日：　令和５年３月１５日（水）　13:30～16:30

場　所　：　大和平野土地改良区事務所 3階会議室

弁護士：　石黒　良彦　氏
　　おおみね法律事務所

申込み：　奈良県土地改良事業団体連合会
　　総務企画課　TEL:0744-29-1310

総務企画課まで
お気軽に
お問合せ下さい☆

● 編 集 後 記 ●

昨年は大変お世話になり、ありがとうございました。コロナ禍ではございますが、感染防止対策を行いながら、少しずつイベントを開催することができ、皆様にお会いする機会が増え、とても嬉しく思います。まだまだ寒い時期が続きますのでお体に気をつけてお過ごしください。本年も引き続きご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。（編集部）